



## 「どんな”おもちゃ”を買ってあげてますか？」

今回は、4～9ヶ月までの子どもにどんな“おもちゃ”がいいか紹介しようと思います。

まず、おもちゃを紹介する前に**4～9ヶ月頃までの発達特徴**を考えてみましょう。

- 3ヶ月頃芽生え始めた、自分自身の身体への気づきや、周囲の物、人への気づきは、さらに明確になっていきます。
- お座りができるようになり、つかまっていれば立つこともできるようになります。
- 寝返りしたり、すり這いにて動いたりできるようになります。
- 手を物に対して、上手に伸ばせるようになり、握ったり、離したり、持ち替えたりする事もできるようになっています。
- 声をかけると振り向いたり、イナイナイバーで喜べるようになります。
- 追視が180度できるようになります。色は赤いもの、形は丸いものが好きで、人の顔のような図柄を好んで見ます。

### 子どもの発達に応じた遊びとおもちゃ

**3ヶ月頃**に、気づき始めた、自分や自分の周囲の存在に対して、**4ヶ月以降**になると自分自身も含め周囲にあるものはすべて興味の対象として、積極的に手や口を用いて探索を行います。探索はまず片手で、次に両手を用いて行ないます。探索を通じて、物の形、重さ、長さ、肌触り、匂い、噛んだ感触、味、温度などさまざまな感触（知覚情報）を楽しみます。これらの“探索活動”を通じて、複数の感覚（触覚、視覚など）を統合させ知覚世界を広げていきます。したがって、特別な“おもちゃ”を用意するというより、「**子どもの周囲にあるものすべてがおもちゃ**」といえるかもしれません（着ている服、ボタン、ひも、スプーンなど）。

**6ヶ月頃**になると、寝返りにより、行動範囲が広がり、目的の所（関心を持ったところ）まで動いて近づくようになります。その過程で、自分自身が動く楽しみを感じ、さらに“ゴロゴロ”と動いて遊ぶことを楽しむようになっていきますので、体を動かして遊ぶととても喜ぶ時期でもあります。また、この時期は、お座りが少し自分でとれるようになり、お父さん、お母さんからもお座りで抱っこされることが増えてきます。その結果、周囲の世界が立体的な空間（3D）として広がり、物、人を立体的に捉えるようになっていきます（図1）。このような視覚世界の広がり、より遠くの物を捉えやすくなり、声掛けに対して気づきやすくなります。

**8ヶ月頃**になると、周囲の物をただ感じるだけでなく、動かしたり、出し入れしたり、落としたりして遊ぶようになります。この遊びを通じ、子どもは物と物の関係性を理解するようになり、周囲に対して感じる遊びから、物を操作して遊ぶようになってきます。そうすると、おもちゃも“手に取るおもちゃ”から“操作して遊ぶおもちゃ”を好きになってきます（図2、3）。さらに、この物と物関係性の理解は、イナイナイバー遊びにも関連しており、この頃の子どもはイナイナイバーをととても喜びます。以上4～9ヶ月までの様子をまとめてみました。子育てや小さい子どもさんと接する場合の参考にいただければと思います。（文責：浪本正晴）



図1 膝上お座り



図2 押して引いてまわして遊ぶ



図3 入れて見るおもちゃ